

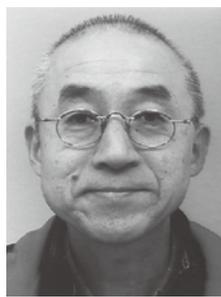


発行 真宗大谷派 高山教務所  
発行者 出雲路 善公  
〒506-0857 高山市鉄砲町6番地  
☎(0577)32-0776  
\*毎月20日発行 50,000部  
三市一郡無料配布  
印刷 山都印刷株式会社

# 念じられ 照らされて

## 後生の一大事

馬川透



〔略歴〕  
一九六一年生まれ、富山県南砺市眞教寺住職。布教使として高山に縁が深い。近年、薩摩琵琶の演奏活動も行う。

私の父は昨年の七月に還浄いたしました。布教にいのちをかけた人生を生きておりました。特に高山へは約五十年、半世紀近く法話をしに足を運んでいました。

父が初めて高山にご法縁をいただいたのは、ある布教使の先生の代理を依頼された時だったそうです。控え間に居りました。隣の部屋から「こいわいこつちや」という世話方同行の慌てふためいた声が聞こえてきました。「何で私が怖いのだろうか」と思ったのですが、「こいわいこつちや」は飛騨弁で「大変な事だ」という意味であることが後でわかりました。「こんな若い布教使が来たけど、本当に満足に法話を語ることができるのだろうか心配だ」という

意味で「こいわいこつちや」と同行方が言っておられたのです。それから、約五十年の長きに亘って、飛騨の皆様方からお育てをいただいております。父は富山県庄川町の山奥に生まれ、縁あって私のお寺に入寺しました。以前、父に「何故お坊さんになりたいと思ったの」と尋ねたことがあります。父が、「信心決定しないと、極楽に往かずに地獄に堕ちると思ったから」と答えてくれました。「お前は単純だと思ってもいいないが、極楽に参りとうて、お坊さんになった」と言うのでした。

昨年、東本願寺から出版された、『なぜ？からはじまる歎異抄』に、武田定光氏が『現代人は「死ねば死に切り」と思っている

だけで帰国し、正に生き地獄の中を自分だけ生き残って帰ってきた罪悪感をかかえての仏法聴聞だったのでしよう。

では、私自身の後生の一大事とは何でしょうか。十一年前に妻と死別した時、妻の遺体の前で、二人の娘と約束したことがありました。「お前達の大事なお母さんを早く死なせてご免なあ。お母さん、仏法をよく聴聞して、仏様の国に還つていったのだから、お母さんの事は何も心配しなくて良いのだぞ。でも、お母さんは

すから、「往生」という問題への関心はさほど切実ではないかもしれませぬ。ただ中世の人々にとっては、とても切実な問題でした。それは中世の人々が、「この世は短くあの世はとて長い」と考えていたからです。「あの世」の生活が長く続くのですから、いき先が「浄土」か「地獄」かは大きな関心事でした。』と指摘しておられます。父もまた極楽に生まれたくて仏法を聴聞していたようでした。それが父にとつての後生の一大事だったのでしよう。特に、満州に開拓団として行っていた時、現地で母や兄弟姉妹を亡くしてあります。「腹へったー、腹へったー」と言いながら亡くなつていった肉親の死を見届け、実家の父親と二人

開けてくるのではないかと実感しました。親鸞聖人は、独り善がりになつて、仏法をよるこんでいるご自身の姿を「疑城胎宮」という言葉で示されました。「不見三宝」と言い、他者の言葉に耳を塞いで仏法をよるこんでいるのが自分の姿であると言つておられます。だから、いつの間にか独り善がりになつてこんな私でも、親鸞聖人と一緒に歩めるのだと思えます。妻の問いかけが、私にとつての一大事です。

### 聖教学習会

日時 3月1日(水) 15日(水)

午後1時30分  
午後4時30分

講師 藤元 雅文氏

(大谷大学講師)

講題 「正信偈に学ぶ」

会場 高山別院研修室

会費 無料

### 公開講座 『現代と真宗』

日時 3月8日(水) 午後7時

会場 高山別院 本堂

講師 小原 美佐雄氏

(国立療養所入所者)

旭野 康裕氏

(永養寺住職)

講題 『ハンセン病問題に

学ぶ』私たちは何

を見て、何を

見ないかつたか』

### 嘉念坊善俊上人法要

並びに顕彰会総会

飛騨における真宗の祖、嘉念坊善俊上人の祥月命日にあたる3月3日、高山別院本堂において法要と総会を行います。総会後、講演会を行いますので、会員以外の方もご聴講ください。(無料)

日時 3月3日(金) 午後1時30分

会場 高山別院 本堂

講師 三島 多聞氏

(真蓮寺住職)

講題 未定

### 蓮如忌法要

日時 3月25日(土) 午後1時

講師 藤原 千佳子氏

(金沢教区浄秀寺)

講題 未定

## 春の彼岸会・永代経法要

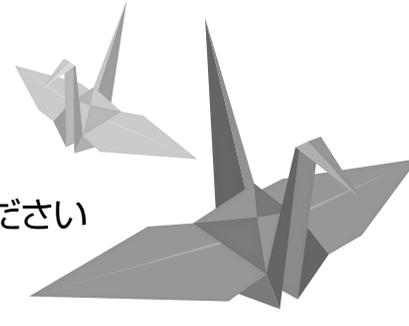
亡き方をご縁として仏法に出遇う大切な仏事です。ぜひお参りください。

3月17日(金)～23日(木)  
午後1時から勤行・法話

17日(金)	みつもと 三本 昌之氏(蓮徳寺住職)	まさゆき 昌之氏(蓮徳寺住職)
18日(土)	おはら 小原 正憲氏(専念寺住職)	まさのり 正憲氏(専念寺住職)
19日(日)	くぼた 窪田 哲氏(圓徳寺前住職)	さとし 哲氏(圓徳寺前住職)
20日(月)	たけだ 竹田 雅文氏(東等寺住職)	まさふみ 雅文氏(東等寺住職)
21日(火)	えま 江馬 雅人氏(賢誓寺住職)	まさと 雅人氏(賢誓寺住職)
22日(水)	よつづじ 四衢 亮氏(不遠寺住職)	あきら 亮氏(不遠寺住職)
23日(木)	みしま 三島 清圓氏(西念寺住職)	きよまる 清圓氏(西念寺住職)

## 高山教区「平和と人権の旅」

- 【開催期間】 2017年3月27日(月)～28日(火)
- 【会場】 国立療養所大島青松園・土佐別院 ほか
- 【募集人数】 20人
- 【参加費用】 30,000円
- 【締切】 3月15日(水)
- 【申込方法】 高山教務所までお電話ください



☎テレホン法話(0577)34(2313) ○2月21日～28日:岩崎正親氏「正覺寺」 ○3月1日～10日:畑中道子氏「玄興寺」 ○3月11日～20日:江馬雅臣氏「賢誓寺」 宗教トラブルFAX相談窓口(0577)32-0763

御遠忌に向けて「おたいや同朋唱和」第1回講習会を開催

同朋唱和による御遠忌法要を！

高山教区・高山別院宗祖親鸞聖人750回御遠忌法要(2019年5月10日〜12日)に向けて、同朋唱和の取り組みがスタートしました。

約2年後の御遠忌法要では、5月11日の午後11時同朋唱和の法要が勤まります。それに向けての第1回講習会が2月5日に高山別院で行われ、各お寺の呼びかけにより、飛騨全域から134名、家族を合わせると172名の方が参加されました。

同朋唱和とは端的に言えば、ご本尊に向かって「一緒におつとめ」することです。親鸞聖人が作られた「正信偈」と「和讃」を「親鸞聖人の御遠忌法要で一緒におつとめしたい」との思いから動き出しました。

「一緒におつとめ」する同朋唱和は決して真新しいものではなく、おつとめを通じて代々ご本尊に手を合わせてきたという歴史があります。

今回の「おたいや同朋唱和」では、皆さんにとって馴染み深い赤いおつとめ本「赤本」よりも少し難しい読み方(正信偈真四句目下・念仏和讃淘五)になりますが、このおつとめはお寺の報恩講(親鸞聖人のご命日を縁とした最も大切な仏事)でつとめられます。御遠忌法要が到着点ではなく高山別院から各寺に、そして各お寺から各家庭に南無阿弥陀仏のうたが再び広がっていくことを願っています。



講師の竹橋 太 氏



を一緒に聞かせていただきました。

おつとめをはじめとする儀式は頭が下がっているすがた。その型を通して何度も何度も私たちは頭が下がるすがたに戻れる。また同朋唱和によつて正信偈という「うた」を楽しみ、同時に周りの人の声、親鸞聖人の声に耳を傾けることが大切です、と教えていただきました。

その後、師子吼会(若手僧侶による声明儀式作法講習会)によつて、おつとめの基本的作法講習があり、ともに正信偈をおつとめしました。はじめて聞く若い人はその声を聞きながら熱心におつとめ本に目を向けており、そのすがたに20代から80代と幅広い年代が参加された意義を新たに気づかされました。

御遠忌に向け、皆さん是非一緒に正信偈をおつとめしましょう！

(文：同朋唱和実行委員長 白川 悟)

飛騨御坊御遠忌七五〇

子ども御遠忌に向けて

御遠忌の年には、子どもたちを対象とした「子ども御遠忌(仮称)」(2019年4月28日開催)をお勤めすることが決まっています。

御遠忌を迎えるにあたっての話し合いの中では、これまで私たちまで伝えられてきた大切なことを、次の世代へ如何に伝えていくのかが課題となりました。

真宗門徒は、報恩講、法事や葬儀といった仏事を大切にしてきました。かつてはお年寄りが子や孫を連れて法座に参るということもありましたが、それは子どもにとってもお念仏をいただく大切な場であったからなのでしょう。しかし、今、お寺に子どもの姿を見ることは多くありません。また家庭の中でお内仏に掌を合わせるという習慣も失われつつあります。

人と人のつながりが希薄になっているこの現代、子どもも大人も孤独や不安を抱えて生きています。このような状況の中で、伝え合うことのできるあたたかな関係を築いていきたいという願いの中で行われるのが「子ども会」立ち上げの取り組みです。これは子どもに場をひらくことが目的ですが、お寺の人だけでなくご門徒の方、または地域の方にもいっしょに作り上げていただきたいと考えています。このつながりが「仏さまの家族」になり、その集いの場として2019年の御遠忌をお迎えしたいと思います。



おしなや くらなび

特別号



問 そもそも御遠忌ってなんやな？

別院やお寺の集まりなどで「ごえんき」という言葉を耳にされるかと思えます。言葉は聞くけど、実はなんのことか分からないという方もおられるかもしれませんね。

今聞かれる「御遠忌」とは、「宗祖親鸞聖人750回御遠忌」のことで、親鸞聖人が亡くなられてから、750年目のご法事のことです。ご家庭でも一周忌、三回忌とご先祖の御法事を勤められるかと思えますが、基本的に意味合いは同じです。浄土真宗の法事は、亡くなられた方への追善供養ではなく、亡き人を偲び、その方を縁として私たち自身が教えに遇

うことが大切な意義とされています。また、私たちは親鸞聖人のことを「宗祖」とお呼びしますが、「宗」とは中心・要を表しますので、親鸞聖人は私たちが生きていく要を示してください。ですから、御遠忌を勤める意義は、宗祖の御法事を縁として、私たちが南無阿弥陀仏の教えに遇うということです。実は、これと同じ意味で毎年、各お寺や地域で勤められている仏事が「報恩講」であり、御遠忌は毎年勤まる報恩講の積み重ねの上にあるといってもよいでしょう。報恩講は、何年か前までは各家庭でも勤められていましたが、この飛騨の地では、さまざまな状況の中で勤められることが少なくなってきたようです。真宗門徒の伝統は、50年に一度の御遠忌を機に、次の世代へと手渡されてきました。私たちは今、その歴史の中にいるのです。



定例法座・法話(午後1時から) ○2月21日(火)：松岡真澄氏「西蓮寺」 ○2月27日(月)：出雲路善公輪番 ○2月28日(火)：藤守博氏「一念寺」 ○3月1日(水)：光本智見氏「南春寺」 ○3月11日(土)：出雲路善公輪番 ○3月13日(月)：三島清圓氏「西蓮寺」